

ジェンダー平等を目指して

ジェンダーバイアス

という言葉聞いたことがありますか？

ジェンダーバイアスとは、「男らしさ」「女らしさ」といった観念を基に、男女の役割を固定的に考えることです。「性別」による偏見になります。

身近な場面にあるジェンダーバイアス

日々の生活の中で、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」と考えたことがあるかと思います。また、社会や文化の中で、「男らしさ」「女らしさ」を期待されたり、評価されたりすることもあるかもしれません。これらは、無意識のうちに行われていることも少なくなく、このように、ジェンダーバイアスがあることで、自分の行動や意思決定が制限され、生きづらさを感じた経験をされた方もいるかもしれません。



では、どうすればジェンダーバイアスから解放されるでしょうか？まずできることは、無意識に持っている自分の中のジェンダーバイアスに気づくこと。自分自身のこれまでの考え方や行動に思い込みや偏った見方がないか、今一度振り返ってみることからはじめませんか。

学生の思い 『ジェンダーかるた』で伝えます

ジェンダーの課題を「かるた」で伝えたい 久留米大学と連携した取り組み

久留米大学文学部情報社会学科（江藤智佐子教授）との協働で、SDGs目標5の「ジェンダー平等」を中心にジェンダー課題に取り組んでいます。これまでの学びから学生が作成したオリジナルの『ジェンダーかるた』の一部をご紹介します。

句の中には、家庭や学校、職場での男女の役割への違和感や日常の気づき、そして未来への希望がユーモアを交えて詠まれています。



“男らしく”“女らしく”を求めるジェンダーですが、人の個性はそれぞれです。性別による思い込みや偏見によって役割を押し付けられることには男女関係なく違和感を感じるのではないのでしょうか。他人や社会から押し付けられた「男らしさ」「女らしさ」といった固定概念を、自分のペースで静かに手放したいという願いを表しています。

SDGs では無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価することが目標となっています。家事には、炊事、洗濯、掃除、育児などが挙げられますが、それ以外に名前がついていない様々な「見えない家事」と言われるものがあります。例えば「寝具やタオルの交換」「調理台の手入れ」などのたくさんの作業がありますが、誰がやっていますか？「見えない家事」を家族で協力しながら分担していくことがジェンダー平等につながっていくと考えた句になります。



今号の表紙

今号の表紙は「ジェンダーかるた会で学びを探究（久留米大学）」



6月15日～29日
男女共同参画週間にて
展示しました！

